

# 反政運動

## 通信 第4期

1部 200円  
2008. 9. 3 No. 08

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階  
Tel. & Fax. : 03-5275-5989  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2008. 6~2009. 5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反政憲」運動情報通信

## 福田政権のアフガニスタン戦争加担こそが悲劇の原因だ！ ——「ペシャワール会」スタッフはなぜ殺されたのか

アフガニスタンのタリバン勢力の反撃は拡大しつづけており、米兵の死者数は、7月にイラクを上回ったことが報道されていた。米軍による民間人をまきこんだ攻撃も止まらず、現地の人びとの反米感情はさらにエスカレーションしていることも。

8月27日、マスコミはこぞって「アフガンで日本人拉致」のニュースを伝えた。『朝日新聞』を引こう。「アフガニスタン東部のジャララバード近郊で二六日朝、日本のNGO『ペシャワール会』（本部・福岡市）の日本人男性職員と現地の運転手の計二人が武装グループに拉致された。地元警察と犯行グループの間で銃撃戦になっているとの情報もあり……」。

翌28日、「ペシャワール会」の伊藤和也さんとみられる遺体が発見されたという報道が続く（運転手は救出）。「地元警察によると警察部隊は山中で犯行グループを発見し銃撃戦となり一人を逮捕。この容疑者は伊藤さんの殺害を認めているといい、二七日は供述を元に残る犯行グループの潜伏場所を特定し捜査してきたところ、日本人らしき遺体を発見した。アフガン東部で活動する反政府武装勢力タリバンの一派を名乗るムニブラ司令官は二七日、『朝日新聞』に対して日本人を拉致したことを認めたが、『我々は政府側へ何らかの要求をするための人質にするつもりだったが、日本人は政府側との銃撃戦に巻き込まれて死亡した』と述べ、意図的な殺害との見方を否定した」（『朝日新聞』）。

最悪の悲劇的事態を伝えるこの記事にはペシャワール会の現地代表中村哲医師の記者会見での以下のようなコメントが紹介されている。

「政治的背景はないと思う」。「以前は日本人なら大丈夫だったが、四月ごろから対日感情も急速に悪化していた。伊藤君をとどめた私が悪い」（傍点引用者）。

その後、やはり「政治的背景」はあることが明らかになりつ

つある。だとすれば、なお、この「対日感情の悪化」の原因こそが、より具体的に検証されなければならないのに、マスコミ報道はそうになってはいない。

「『世界では、今この瞬間も、さまざまな地域で争いがつづき、貧困などでたくさんの人たちが苦しんでいます。そういう地域や人たちに、少しでも手をさしのべていくことが、伊藤さんの遺志にもこたえ、また、平和協力国家としての日本の役割でもあります』／福田首相は二八日配信の福田メールマガジンで、『テロとの戦い』に引き続いて取り組むことへの決意を示した。／アフガン本土への自衛隊派遣は、現地の治安情勢の悪化を考慮して見送ってきた。それに代わる形で、現地で活動しているのがNGOなど民間の援助関係者だ」（『読売新聞』8月28日）。

こういう、政府のNGOの活動をまるごと「テロとの闘い」という軍事活動とセットに位置づける論理を多くのマスコミはそのまま垂れ流している。「ペシャワール会」は、国際治安支援部隊（ISAF）という軍隊とは関係せず、丸腰の活動を続けていたし、アフガン戦争に参戦している日本政府の資金援助とも距離をとり、現地の人びとの生活を内側から支える活動をくりひろげていたのである。憲法9条（平和主義）を踏みにじり、派兵（戦争）国家化を進める政府に対抗し、非軍事の9条の精神にそった活動を長年積みあげてきている、数少ない、言葉の本来の意味のNGO（非政府）団体である。だからこそ現地の人びとの深い信頼を得ていたのだ。しかし、アメリカ中心のアフガニスタンの軍事占領を支援し、インド洋での給油活動を持続し、ISAFへの派兵をも検討しだした政府の戦争協力政策の強化が、対日感情をさらに悪化させ、この悲劇をつくりだしてしまったのだ。来年1月に期限が切れる給油法。すべての戦争加担を今度こそ終わりにさせよう！（天野恵一／事務局）

▶外務省は本気で焦っている。経済力低下によって日本の「地位が低下」し、「影が薄く」なり、これまでの日本の場所を、中国・インドが占めていることに。種々のデータには事欠かない。だが彼らの焦りを最もかき立てているのは、国際会議で発言を認められなかったとか軽く扱われたとかいう実体験だ。そういう体験記がマル秘扱いされ、霞ヶ関で大まじめに回覧されている。彼らのプライドを救済するため、新たな「外交力

# 憲法喧嘩

強化」予算が今年は何億と組まれた。▶イラクのため、アフガニスタンのために派兵や給油してるんだ、という欺瞞も欺瞞なら、日本の「地位」を維持するためのなりふり構わない「戦略」も「戦略」。そもそも、国際社会の中での名誉とか地位を努力目標に掲げている憲法前文なんて、日本国憲法くらいじゃないのか。それを「恥ずかしい」と思う「身内意識」に嫌悪を持ちつつも、これを「愛国心」とは絶対に呼ばせない。（あ）

## 名古屋高裁判決と派兵恒久法◇9・13「九条の会」学習会へ

「九条の会」事務局が主催する学習会「名古屋高裁判決と派兵恒久法」が9月13日(土)午後1時半(開場1時)～4時で星陵会館で行われる【詳細は6面参照】。講師は名古屋高裁のイラク派兵違憲訴訟で鑑定意見書を書いた小林武(愛知大学教授)、この間、自衛隊問題を丹念に取材・追及している半田滋(東京新聞編集委員)と、一橋大学の渡辺治の各氏である。

この学習会では改めて解釈改憲の最たるものというべき自衛隊海外派兵恒久法の問題と結びつけて、判決の意義を学び、この秋の9条改憲反対、平和のための運動に役立てようとするものである。講師には、現在、関連する分野で活躍する第一人者ともいべき人々をお招きしたので、ぜひご参加いただきたい。

今年初めの通常国会での所信表明演説で、「自衛隊海外派兵恒久法」を自らの内閣の重要課題として掲げた福田首相は、その後、通常国会への法案提出を目指して自民・公明の与党協議を進めたが、公明党がこれに対して消極的な対応に終始した。その結果、当初の与党合意目標であった春はもとより、この臨時国会にむけても与党案を作るめどが立たず、法案提出を断念する羽目になってしまった。この状況を危惧したシーファー駐日米国大使をはじめ米国側からは再三の要求が繰り返されているが、福田内閣はいまニッチもサッチも行かない状況に落ち込んでいる。米国は大統領選挙を控えてイラク

からの撤退という方針が半ば既定事実化しつつあり、オバマ候補の主張に見られるように対テロ作戦ではアフガン重視の動きが強まっている。陸自、空自のアフガン戦争協力要求はより強まっている。日米関係から見て、新法は不可避の課題であるようだ。

福田内閣は当面、今年年頭の臨時国会で強引に衆院再議決をした派兵給油新法の延長法を成立させることで切り抜け、派兵恒久法は来年の通常国会以降の課題として先送りしようとしているが、これも解散含みの情勢もあり、万全とは言えない状況にある。

公明党はとりわけ夏のG8サミットを経て、与党内で福田内閣に対する不満を露骨に表明しはじめている。公明党には、超低空飛行をつづける福田内閣の支持率に見られるように、このままでは間近にせまった衆院選と来年夏の東京都議選の敗北は必至だという危機感がある。派兵恒久法の問題では、この間の国会での議論を極度に無視してつくられた、法案としてもきわめてできの悪い石破試案に不満をいだき、これをベースに与党間で派兵恒久法案づくりが進められ、公明党がそれに加担した形になることを危惧している。

揺れ動く情勢のもとで、9月12日からの臨時国会など、この秋、私たちはいかに闘うべきかを考えるうえで、貴重な機会である。(高田 健/許すな! 憲法改悪・市民連絡会)

## 戦後の人間象徴天皇制◇基礎講座第4回は9月20日

反天皇制運動連絡会(反天連)は今年から来年にかけ、私たち自身の足腰強化も兼ねて「どうして続くの天皇制——象徴天皇制問題基礎講座」と題した連続講座を企画、開催しています。全8回のうち、これまでにすでに3回の講座を開きました。

第1回「象徴天皇制とは：なぜ日本は天皇制なのか」と第2回「天皇制の現実：憲法第一章(1条～8条)はどのように読むべきか」では、戦前・戦後の天皇制について憲法上の規定や実態面から総論的に検証しました。

次いで前回から、シリーズ全体の第2部に当たる「天皇制の今と昔：歴史認識の現在を問うために」に入り、その初回の第3回は「天皇制と国民国家：近代の天皇制国家とは」とのタイトルで、近代天皇制の形成プロセスや、その後ファシズム体制が確立されていく過程で天皇制がどのように変貌を遂げていったかなどについて議論しました。

この中では、大日本帝国憲法下の天皇制であっても、神格化された天皇像一辺倒ではなく、スポーツに興じているような「開かれた」天皇制イメージがふりまかれた時期も存在し、立憲君主的天皇と神権天皇の二つの顔の間でせめぎあいがあったことなどについて、反天連メンバーの北野誉が報告。初回からの中心テーマの一つに挙げられている、こうした「天皇制の二重構造」などをめぐり討論が続けられました。

次回第4回は、「戦後の人間象徴天皇制：戦争責任とどう向き合ってきたか」と題し、戦後初期に焦点を当てて、吉田

裕『昭和天皇の終戦史』(岩波新書)を主なテキストに、天皇制をめぐる日本社会のありようについて見ていきたいと思います。

敗戦直後の占領下、天皇制は、裕仁個人はもとより、天皇制そのものの戦争責任を回避するため、自ら進んでアメリカに擦り寄り、アメリカ製の天皇制として作りかえられることを選び取りました。当時のGHQを中心としたアメリカ側にこびを売り、東京裁判をかいくぐりながら、裕仁の命ごとと天皇制生き残りのためさまざまに暗躍したのは、宮中グループと、それと連携した、戦前「親英米派」と呼ばれた保守政治家たちでした。彼らがその後の保守本流と呼ばれる勢力の中心を形作り、一方で併行して進展した冷戦状況に助けられる形で、より右寄りの神権主義右翼を含む勢力も保守層の一角に根強く温存されることになりました。そのことが、戦後日本社会のアジアへのまなざし、戦後補償、靖国問題などに見られる歴史認識に、どのような影響を与えたのか。こうしたことについて議論を深めたいと思います。よろしくご参加下さい。(中嶋啓明/反天連拡大事務局周辺)

日時：9月20日(土) 14:00～(当初、年間スケジュールの中でお知らせした日にちから変更しています。ご注意を)

場所：ピープルズ・プラン研究所(文京区関口1-44-3 信生ビル2F/地下鉄有楽町線江戸川橋駅1-b出口徒歩3分)

連絡先：反天連(Fax:03-5275-5989)



# レイバー映画祭2008◇考えてみよう! 社会のこと 生きること

9月20日に「レイバー（労働）映画祭2008」を計画している。主催するのは、はたらくものの情報ネットワーク「レイバーネット日本」(<http://www.labournet.jp.org/>)だ。

レイバーネットができたのは2001年2月。「暗い・ダサイ・堅い」と評判の悪い労働運動だが、本来の労働運動は人間を解放するもので、魅力的なはず。インターネットを活用することで、若い世代にも通じる「明るい・かっこいい・柔らかない」新しい労働運動の息吹をつくれぬものか。そんな思いをもって、組合活動家・メディア関係者・労働運動研究者などが始めた緩いネットワーク体がレイバーネットである。

2002年からは「レイバーフェスタ」をはじめた。韓国・アメリカの「労働者文化祭」を見た若者が日本でやろうと提案したのがきっかけだった。日本のレイバーフェスタは年に1日だけの小さな試みだが、「映画・音楽・3分ビデオ」のプログラムがすっかり定着し、「労働運動の本来の魅力」を伝える役割を果たしてきた。いままで「文化」は政治の下に見られがちだったが、文化こそが「労働運動の思想・生き方」を体現し、運動を豊かにするものであることが認識されていった。

そんな流れのなかで2007年「レイバー映画祭」が生まれ、ことしで2回目になる。非正規職が拡大し、格差社会・ワーキングプアの出現など目に見える形で「労働問題」が浮上している今の日本、まさに「文化」の出番である。お隣の韓国で

は、労働運動が活発で、すぐれた映像作品が次々に生まれている。今回のレイバー映画祭の目玉のひとつが、その韓国の「私たちは風の中に立つ」である。トンイル紡織労組の女性たちの34年に及ぶたたかいの映像は、労働問題の枠をこえて、韓国民主化運動の歴史、女性差別問題まで見すえている。これが映画の力だ。

その他、いま一番ホットな話題「蟹工船」も上映する。第2部の「鉄道民営化は何をもたらしたか」は、新自由主義・格差社会の原点を映像で伝える。人身事故の多発、秋葉原事件など社会矛盾がどんづまりまで来ている日本で、これからどう生きていったらいいのか、レイバー映画祭はきっとそのヒントを与えてくれるだろう。

(松原明／レイバーネット日本副代表)

.....

## レイバー映画祭2008

▶ 9月20日(土) 10:30~20:30／全水道会館ホール

▶ 一般1500円(前売1200円)

▶ 第1部：時代をこえて 10:30~

第2部：鉄道民営化は何をもたらしたか 13:15~

第3部：短編セレクション 17:25~

第4部：韓国労働運動の息吹 18:30~

▶ 連絡先：レイバーネット日本(電話：03-3530-8930)

## 9・27 辺野古の新基地建設NO集会へ!◇沖縄県議会決議実現に向けて

沖縄県議会が7月18日に決議した「名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する決議」を受けて、辺野古への基地建設を許さない実行委員会(辺野古実)が、**9月27日(土)18時半から文京区民センターで集会を開催する**(会場費500円)。ぜひ参加してください。

この「名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する」県議会の意見書と決議は、内閣総理大臣・外務大臣・防衛大臣・沖縄及び北方対策担当大臣あてに意見書として、駐日米国大使・在日米軍司令官・在日米軍沖縄地域調整官・在沖米国総領事あてに要請決議として、沖縄県知事あてに要請決議として、県議会名で提出された。

### 名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する 要請決議(抜粋)

日米両政府は……1996年4月、普天間飛行場の返還を発表した。しかし、これは県内への移設条件つきであり、しかも……**辺野古沿岸域でのV字型の新基地建設計画へと立ち至っている**。……本県は国土面積のわずか0.6%にすぎない狭隘な県土面積に全国の米軍専用施設の約75%が集中しており、これら米軍基地は……**沖縄本島においては、実に18.4%を占める異常な状況下にある**。……県民は普天間飛行場の名護市辺野古での新基地建設には、基地の過重な負担と固定化につながることから一貫して反対してきた。同様に、地元名護市民も1997年12月に行われた市民投票において**辺野古新基地**

建設に反対する

という意思を明確に示した。また、名護市辺野古海域は沖縄県が「自然環境の保全に関する指針」で「評価ランク1」に分類しているように……**ジュゴン**を初めとする希少生物をはぐくむ……**新たなサンゴ群落が見つかる**という世界にも類を見ない美しい海域であることから、**新たな基地の固定化と、新基地建設工事に伴う環境汚染や大規模な埋め立てによる環境破壊につながる辺野古新基地建設には断固反対し、世界に誇れる自然環境を後世に残し引き継ぐことこそが我々沖縄県民の責務である**。よって、本県議会は、名護市辺野古への新基地建設を早急に断念されるよう強く要請する。

上記のとおり決議する。

平成20年7月18日 沖縄県議会

一方、辺野古現地では、毎日熾烈な闘いが続いている。座り込みは1,580日を超え、海では不当な環境アセスメント調査の阻止・監視行動を続け、時には水中で調査業者の作業員による危険な暴力行為に耐え、時には海上保安庁のいやがらせ(臨検)を受け、闘いが続けられている。辺野古実からも、人を派遣し、派遣カンパを皆さんにお願いしている。

9月27日には、県議会決議を提案した玉城義和さん(県議会副議長)と辺野古現地で闘う当山栄さん(沖縄平和市民連絡会)の訴えを聞き、米軍再編の要である辺野古基地建設阻止のために共に闘おう。

(木村雅夫／新しい反安保行動をつくる実行委員会)

## 報告◆8月13日 RAWA に聞くアフガニスタンの今

「残念なことに、数年前と比べてアフガニスタンの状況は改善したとはいえません。厳しい状況が続いています。」

RAWA (アフガニスタン女性革命協会) のマリyam・ラウィさんが8月に来日し、都内で講演いただいた。

アフガニスタンでは新しい建物も建ち、豊かになったように見えるが、実は富や情報にアクセスできる人とできない人の格差が広がっているという。例えば教育も、今や設備も整い英語教育も手厚い私立学校ができ、富裕層の子どもたちが通っている。宗教教育が主たる科目の公立学校との違いが明白である。女子が学校へ通えるようになったが、公立学校では教材やテキストが行き渡らない上に、通学路さえ治安に不安があるため家族が学校へ行かせたがらない。そんな状況のもと、RAWAは家庭に出向き集まってくる女性たちへ読み書きなどの教育を行っている。また内戦や戦争で家族を失った子どもたちには無料で教育を行っている。

アフガニスタンの最新統計では、人口の42%が生存ぎりぎりのライン(月収10ドル)以下で生活をしている。また平均所得は50ドルでしかない。最貧困は夫を亡くした女性たちだ。国内外のNGOが援助を行っているがとても追いつかない。結局彼女たちは物乞いとなり、また売春という選択を迫られている。そのような女性は急速に増えているという。

産業が乏しく、ケシ栽培と麻薬生産だけが大発展している。2001年に落ち込んだケシの生産高はその後5年間で45倍もの著しい伸びとなった。しかし、それも超大国アメリカや西側諸国が本気で撲滅しようとすればできるはずだ、とマリyamは言う。タリバン同様、ケシ栽培もアメリカや政府に駐留するための口実を与え、利用価値があるというわけだ。

特定のスポンサーのないRAWAは世界中から支援を集めている。Webを見てくれたり、知り合いにRAWAのことを伝えてくれたりという小さなステップが大事だ、とマリyamは訴えた。

最後になるが、RAWAは1977年に組織されたアフガニスタンで最も古いフェミニスト団体である。当初から政府やその時代の権力をもつ勢力から迫害され、87年には創設者の女性が暗殺された。その後運営をグループ制にして、創設から30年以上活動を続けている。2004年に設立した「RAWAと連帯する会」は、RAWAをサポートし、またRAWAから抵抗する勇氣や力を学ぶことを活動の目的としている。毎年パキスタンへRAWAを訪ねる旅を行うほか、機関誌を発行しRAWAの活動を広めている。現在はRAWAが運営するヘウド高校(12年制学校)の運営支援をしている。<http://rawa-japan.3005.net/> をご覧ください。(しみずさつき/RAWAと連帯する会)

### ◆憲法を読む◆

## 『戦争絶滅へ、人間復活へ——九十三歳・ジャーナリストの発言』

(むのたけじ／聞き手：黒岩比佐子／岩波新書／700円＋税)

むのたけじは1945年には朝日新聞社の編集局の記者だった。8月12日にポツダム宣言受諾を社内発表で知ったという。負け戦を「勝った勝った」と言いつづけたのに、もたれた会議は「いずれ連合軍が来るが、そのときに朝日はどうあればいいかを考えてほしい」という内容だった。彼は「うそばかり書いていたのだから、ここできちんとけじめをつけるべきだ」と思い、「全員の辞職」を提案した。いっしょに辞める人はいなくて、一人で14日の夜に辞意を伝えて15日から出社しなかった。1948年2月から秋田県横手市で、「週刊新聞『たいまつ』」を発刊。1978年まで780号出しつづけた。

反骨のジャーナリストとして知られているが、今年93歳。しかしこの書を見ると、過去の人では決してなく、むしろ最前線にいる反骨の人であることに驚かされる。

十年ほど前から親しく交わりを持っていたフリーランス・ライターの黒岩さんが、よく練った質問でインタビューしてまとめたもので、読みやすい。ジャーナリストへの道／従軍記者としての戦争体験／敗戦前後／憲法九条と日本人／核兵器のない世界へ／絶望のなかに希望はある——の目次で、昔話の分量は少なく、国の内外を問わず行き来にも足を惜しまず、現実とよく出会い、よく見つめている。高校生、中学生とも同じ目線でつきあう。

社会主義者として青年時代をスタートした彼が、ソ連の無

慚な崩壊、中国も中身は資本主義という変化を目の当たりに見ての実感、結局資本主義しかないのか、への複雑な思いと、その先への模索的思考には同感と共に、同じ重い宿題を荷う感がする。

世界の社会主義者の悲願だった「革命」が、人民の解放ではなく、「革命ごっこ」でしかなかったのは、民衆自身が自分たちを解放したのではなく、上から「解放されただけだった」と。「九条を守る」のも、誰かビッグネームの人の指導を待つのではなく、一人ひとりが平和な社会を求める気持ちを強くもたなければならない、との重い警告もある。

「戦争をなくすということは、結局、国をなくすということになる」「もう国境はいらない、と私は思っています。もともと地球上に国境なんて線はどこにもない」「国際連合はできるだけ早く『世界連合』や『人類連合』に変える」と。そして別の組織の例としてEUを評価している。「これから先、アジアにおいても国家ではないそういうものが、できるという気がします。『国家』は単なる『連絡所』でいいんです」。

敗戦の夏、8月14日に朝日新聞社をきっちり辞めたむのたけじが言う希望の言葉を、「戦争絶対反対主義」を、この人が言うならいい、こういう言葉を聞きたかった、と、各所でしみじみ思える一書である。

(梶川涼子／反改憲運動通信事務局)



# 反改憲ニュースクリップ

08年8月10日～8月28日

## アフガニスタン

——新たな自衛隊派兵を許すな！

【8月10日】〈米兵犯罪への特権収録〉日本に駐留する米兵の犯罪に関する日米間の密約を裏付ける法務省資料が、これまで国立国会図書館で閲覧可能だったのが、政府の圧力で6月下旬から閲覧禁止になっていたことが明らかに。利用禁止になったのは1972年3月に法務省刑事局が作成した「合衆国軍隊構成員等に対する刑事裁判権関係実務資料」。今年5月下旬、国会図書館に政府から「同資料を非公開とする旨の発行者の公的な決定」が通知され、同図書館は6月5日に関係部局長で構成される委員会に対応を協議、「現時点では発行者の公的な決定と異なる判断を下す理由を見いだせなかった」として、同月23日に閲覧禁止を決定。同図書館のインターネット資料検索システム(NDL-OPAC)からも削除した。

【8月11日】〈アフガン戦争〉アフガニスタンに駐留する国際治安支援部隊は同国南部オルズガン州で、イスラム強硬派勢力タリバンとみられる武装グループへの空爆を実施した際、子供数人を含む民間人8人を巻き込んで殺害したことを明らかにした。〈ヒューストン寄港拒否〉米海軍の原子力潜水艦ヒューストンが約2年間にわたり、放射性物質を含んだ冷却水を漏らしていた問題で、沖縄県の上原昭知事公室長は11日、「原因究明と再発防止策の対応が明らかにされない限り、ヒューストンの寄港を認めるわけにはいかない」として、長崎県に次いで、寄港を容認しない方針を明確にした。〈東条メモ〉終戦直前に東条英機元首相が書いた直筆メモが国立公文書館から公開された。無条件降伏すれば国民が「軍部をのろう」とし、天皇制を中心とした「国体護持」が受け入れられないなら「敢然戦うべき」と戦争継続を昭和天皇に訴えている。また武装解除に応じてしまえば、国体護持は「空名に過ぎ」なくなると訴えた。「敵側」が国体護持を否定する態度に出れば「一億一人となるを敢然戦うべき」と上奏したとしている。〈グルジア情勢〉グルジアの南オセチア自治州やアブハジア自治共和国の独立派支配地域に展開するロシア軍部隊がグルジア支配地域への越境攻撃を強化していることについて、グルジアのサーカシビリ大統領は「ロシアがわが国を占領し、政権を転覆させようとしている」と強く非難。グルジア内務省によると、ロシア軍部隊はグルジア西部セナキや、中部のグリ付近など各地に進出し、グルジア軍は首都トビリシ周辺の防衛を強化しているという。地元ラジオはグリとトビリシを結ぶ主要道路付近でロシア軍とグルジア軍が交戦したと報じた。ロシア国防省当局者によると、セナキに侵攻したロシア部隊はセナキのグルジア軍基地を攻撃後に撤退したという。

【8月15日】〈靖国参拝〉靖国神社には太田農林水産相と保岡法相、野田消費者行政担当相が参拝した。また小泉元首相と安倍前首相も参拝した。福田首相はこれまで「終戦記念日の過去の行動を見てください」と述べており、中国や韓国などとの関係を重視する立場から参拝しなかった。首相は政府主催の全国戦没者追悼式出席に先立ち、千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪れた。〈裁判員制度見直し〉民主党の小沢一郎代表は来年5月から実施される裁判員制度について、「日本の風土になじまない」との判断から、民主党が政権を獲得すれば、制度のあり方そのものを見直すべきだとの意向を固めた。共産、社民両党は実施延期を求めているが、民主党は当面、秋の臨時国会で延期を軸に野党共闘を進めるが、廃止で当然の制度だが「見直し」に廃止の可能性も含めるとなれば、民主党内の反発も予想される。今年初めの最高裁の意識調査では、同制度について「義務なら参加せざるを得ない」44.8%、「義務でも参加したくない」37.6%と、消極的な国民意識が明らかになっている。

【8月17日】〈インド洋派兵問題〉自民党山崎拓前副総裁は講演で、来年1月15日で期限切れとなるインド洋での給油活動を延長する新テロ対策特別措置法改正案について「もし成立しなければ国際的な責任問題だ。政権として責任をどう取るかということになる」と述べた。福田康夫首相は衆院で再可決してでも臨時国会で成立させるべきだとの認識を改めて示した。

【8月25日】〈海自3曹自殺に賠償命令〉海上自衛隊佐世保基地の護衛艦さわぎりの艦内で1999年、男性3等海曹が自殺したのは上司のいじめが原因として、宮崎市の両親が国に2,000万円の賠償などを求めた訴訟の控訴審判決で、福岡高裁は請求を棄却した1審長崎地裁佐世保支部判決を変更350万円の支払いを命じた。

【8月26日】〈沖縄自衛隊増強〉防衛省は陸上自衛隊第一混成団(那覇市)を2009年度中に「第一五旅団」に格上げし、定員を約300人増強、約2,100人体制とする方針を固めた。関係予算を09年度予算概算要求に盛り込む。事態対処能力を向上させるため、混成団の混成群を廃止、普通科連隊を新編する。そのほか敵情を視察する偵察隊や化学防護隊もそれぞれ新編するなど、大幅に組織を改編する。この第一混成団の旅団化や那覇基地へのF15配備は、軍備力を急速に増強させている中国などをにらんだ「西方シフト」の象徴的な動きといえる。

【8月28日】〈アフガン自衛隊派遣〉政府はアフガニスタンの復興支援を目的とする同国本土への自衛隊の派遣を断念した。非政府組織(NGO)「ペシャワール会」の伊藤和也さんが武装グループに殺害されたのを受けての情勢悪化で判断。一方で、町村官房長官はインド洋での海上自衛隊の給油活動を継続するため、来年1月に失効する新テロ対策特別措置法(給油新法)の延長法案を臨時国会に提出する方針を明言。「テロとの戦いの戦列から脱落すれば国際社会の動きに反する」などと強調。

# 私も一言 71

藤田五郎 (山谷労働者福祉会館活動委員会)

## 私と憲法

山谷で長年、日雇・野宿者の支援に加わっていることで、憲法といえども25条・生存権の問題に直面せざるを得ないが、おそらく他の人も触れるところだと思うので、違う角度から憲法を考えてみた。

私はここ数年、東京都総合防災訓練反対運動に関わっていた流れで、いわゆる有事法の国民保護法とその実動訓練(有事訓練・対テロ訓練)を問題にして、都庁に申し入れ、折衝したり、ささやかながら現場で反対の声をあげてきた。そこで、あらためて、振り返ってみると、今はまだ、有事訓練とは

いっても、「防災訓練」の延長程度の中身が実態で、自衛隊が本格的に検閲や山狩り(実はこの4月に広島県で、対テロ戦闘山狩り訓練は実施されたが)など、いわば戒厳令の軍隊のようなまねは控えている。それは、やはり現行憲法下では、戒厳令が不可能であるためだ。

仮に自衛隊が名実ともに国軍に「昇格」としたら、徴兵(実施するかどうかは別としても)、捕虜の明確化、軍法会議、戒厳令(あるいはそれに近いもの)が位置づけられるはずだ。戒厳令を敷き、夜間外出禁止令などで、現場をすべて仕切ることは、軍隊が軍隊として自負心を持ち、あらゆる他者に軍の威光を認めさせるために、有効な方法だ。だから、改憲されて国軍になった時には、国民保護訓練のあり様は必ず変わる。それまでは、まだまだ警察や消防の後ろで控えめにして、負傷者のトリアージや、野戦用のキッチンカーで炊いたご飯をふるまったりが当分続くわけだ。

そんなわけで、反改憲を訴えてゆくときに、この「戒厳令が可能な社会はいやだよ」というのが、もっと広められないものかと思っている(防災訓練、国民保護訓練反対運動のあまりのショボさの中で)。

## 集会・行動情報 9/5~9/20

▶9/5(金) 公開講演会「小さな政府」を考える～これからの官と民の関係は? ◆山家悠紀夫(「暮らしと経済研究室」主宰、元神戸大学) ◆18:30~ ◆立川市市民会館(アミューたちかわ)小ホール(JR立川駅南口徒歩13分) ◆無料 ◆主:立川市職員労働組合(042-527-5626)

▶9/6(土) 公開講座:オリンピック・チベット・大衆の反乱 中国はどこへ——香港・先駆社の丁言實さんを迎えて ◆18:30~ ◆文京シビックセンター 4F・B会議室(地下鉄春日駅下車) ◆800円 ◆主:アジア連帯講座(03-3372-9401)

▶9/7(日)「東京大空襲」ドキュメントビデオ、朗読とお話 ◆是永海南男(編集者) ◆14:00~ ◆目黒男女平等・共同参画センター会議室9階(東急東横線・東京メトロ日比谷線中目黒駅徒歩10分) ◆無料 ◆主:目黒区女性学習グループ連絡会(03-3422-2144)

▶9/12(金) 北京五輪は世界へ何を発信したか。どう報道されたか。そしてどう受け止められたか ◆大野晃(スポーツジャーナリスト) ◆18:30~ ◆帝京平成大学池袋キャンパス内豊島区民集会室(JR池袋駅徒歩12分) ◆1000円 ◆問:スポーツ9条の会(03-3986-5402)

▶9/13(土) 九条の会事務局学習会——名古屋高裁判決と派兵恒久法 ◆小林武、半田滋、渡辺治 ◆13:30~ ◆星陵会館(地下鉄永田町駅下車6番出口) ◆1000円 ◆主:九条の会事務局(03-3221-5075)

■不戦ネット2008年秋の講座・第1回/アフガニスタン援助の現場から(パート2)復興支援に軍事力はいらない ◆長谷部貴俊(日本国際ボランティアセンター/アフガニスタン事業担当) ◆13:30~ ◆中生涯学習センター視聴覚室(地下鉄上野駅下車六番出口南へ徒歩約250m) ◆800

円 ◆主:不戦へのネットワーク(電話:052-731-7517)

■講演会・憲法9条の歴史と未来 ◆山内敏弘(龍谷大学) ◆15:00~ ◆伊藤塾高田馬場校 ◆1000円(法学館憲法研究所賛助会員・学生・伊藤塾塾生は500円) ◆主:法学館憲法研究所(電話:03-5489-2153)

▶9/14(日) 軍需利権より生存権を! PAC3ミサイルの実射訓練をやめろ! 防衛省行動 ◆13:30~14:30 ◆防衛省正門前(JR市ヶ谷駅徒歩5分) ◆主:PAC3実射訓練に反対する全国実行委員会(連絡先:核とミサイル防衛にNO! キャンペーン 03-5711-6478)

▶9/17(水) 戦争に反対するイラク帰還兵の会(IVAW) アッシュ・ウールソンさんに聞く——私が見たイラク戦争 ◆19:00~ ◆世田谷区烏山区民センター3階・集会室(京王線千歳烏山駅すぐ) ◆800円 ◆主:今とこれからを考える一滴の会(03-5313-1525)

▶9/20(土) Peace Day Tokyo 2008 ——武力で平和はつukれない ともに生きられる世界へ ◆12:00~15:00/パレード出発15:30/ブース出店11:00~15:30 ◆芝公園4号地(JR浜松町駅徒歩12分ほか) ◆主:WORLD PEACE NOW(03-3221-4668)

■不戦ネット2008年秋の講座・第2回/私たちの街に原子力空母はいらない ◆木元茂夫(すべての基地にNOを! ファイト神奈川) ◆18:30~ ◆名古屋市女性会館(地下鉄名城線東別院駅下車1番出口から東へ徒歩3分) ◆800円 ◆主:不戦へのネットワーク(電話:052-731-7517)

■どうして続くの天皇制——象徴天皇制問題基礎講座・第4回 ◆14:00~ ◆ピープルズ・プラン研究所(地下鉄有楽町線江戸川橋駅1-b出口徒歩3分) → 詳細は、2面下段の記事を参照。